

有機農業で栽培されたお米を学校給食に供給(名古屋市)

学校給食における有機農産物等の活用が広がり、193市町村(令和4年時点)で取組みが行われています。名古屋市においても、地産地消と有機農業を知ってもらうきっかけとして、新濃尾地区の受益である港区南陽地区で有機農業により栽培されたお米が学校給食に提供されています。

有機農業は、環境にやさしい農業などとして注目されており農林水産省では、「みどりの食料システム戦略」において、地場産物や国産有機農産物等を学校給食に導入することを推進するとともに有機農業を全国で6.3万ha(令和12年まで)に拡大することを目指しています。

みなさんも、有機農業で栽培された農産物を積極的に消費し、有機農業を応援しましょう!



クリーンコミュニケーションin大江&蟹江川

令和7年1月26日(日曜日)、大江川(大江排水路)から蟹江川において、毎年恒例の清掃活動があま市かしの会主催により開催され、当事業所からも職員7名が参加しました。

今回で29回目となる清掃活動には、早朝から近隣の高校生約180人を含む約490人が集まり、堤防沿いや水路内に落ちているゴミを拾い集めました。

清掃後には、おにぎりとお肉汁が参加者全員に振る舞われ、冷えた身体を温めてくれました。



ゴミ拾いの様子



作業後の豚汁は最高でした



☆ホームページ紹介☆ こんな内容も掲載しています。よろしければ、のぞいてみてください!

- ① 新濃尾農地防災事業の紹介動画はこちら。
・濃尾平野の農業を守る
～濃尾平野 水と戦い水を活かす～



- ② 新濃尾事業所PR動画を公開しています。
・都市的域における
農業用水路の改修工事



- ③ 東海農政局職員のお仕事紹介動画を公開しています。
・入省1年目!
1日の仕事～防災課編～



新濃尾農地
防災事業所
ホームページ



東海農政局
ホームページ



農林水産省
ホームページ

ご意見・ご質問は新濃尾農地防災事業所ホームページのお問い合わせフォームから!

編集・発行

農林水産省 東海農政局
新濃尾農地防災事業所
〒491-0903
愛知県一宮市八幡5-1-14
TEL : 0586-47-7720

リフレッシュ濃尾用水

農林水産省東海農政局
新濃尾農地防災事業所
2025年3月第104号

Topics!

- ★令和5年度工事の優良工事表彰を行いました
- ★濃尾平野の農業水利史～part2～
- ★写真で見る木津用水～昭和初期と現在を比較～
- ★有機農業で栽培されたお米を学校給食に供給(名古屋市)
- ★クリーンコミュニケーションin大江&蟹江川

令和5年度工事の優良工事表彰を行いました

東海農政局では、国営土地改良事業への理解を深めるとともに、設計・施工技術のレベルアップや地域貢献活動への積極的な取組など、受注者の意欲の高揚を図り、事業の円滑な施行に資することを目的に、工事・業務の成果が優秀であり他の模範となるものや優れた地域貢献活動を実施した受注者を表彰しています。新濃尾地区で令和5年度に完成した工事・業務のうち、以下の3社が東海農政局長表彰、新濃尾農地防災事業所長表彰を受賞しました。

<新濃尾地区の受賞者及び工事・業務名>

受賞者	工事・業務名	表彰名
徳倉建設(株)	新濃尾(二期)地区 新木津用水路小牧岩崎工区その6工事	東海農政局長表彰
若鈴コンサルタンツ(株)	新濃尾(二期)地区 新木津用水路施設管理要領作成その2業務	東海農政局長表彰
(株)ミゾタ	新濃尾(二期)地区 小水力発電ゲート設備製作据付工事	新濃尾農地防災事業所長表彰

事業所長表彰の「新濃尾(二期)地区小水力発電ゲート設備製作据付工事」は、現場可能期間が非出水期(10月～翌5月)に限定されていることに加え、狭隘な場所に5件の工事が輻輳していることから、綿密な施工調整が求められる難易度の高い施工条件でしたが、(株)ミゾタさんは、品質及び現場の安全を確保しつつ、工事を円滑に進め、早期に施工ヤードを開放することにより関連工事の工程を確保するなど、円滑な推進に貢献しました。

東海農政局長表彰2社の概要については、東海農政局HPに掲載されています。ぜひ、チェックしてみてください!!

URL: <https://www.maff.go.jp/tokai/noson/nn/kouken/241213.html>



<徳倉建設(株)>



<若鈴コンサルタンツ(株)>

東海農政局長表彰の記念撮影
(R7.2.12東海農政局にて)



<(株)ミゾタ>

事業所長表彰の記念撮影
(R7.2.13事業所にて)

濃尾平野の農業水利史～part2～

濃尾平野の農業水利史について、前号から連載しています。今回は第2段です。

2-2 宮田用水

御囲堤の完成により尾張西部地域では、洪水の心配は少なくなりましたが、同時に木曾川の派流である五条川、青木川、野府川などが締め切られ、それらの河川に依存していた水田の水源も失われました。このため、堤防の完成とともに般若村（江南市）と大野村（一宮市）の2ヶ所に坎（いり）と呼ばれる取入口を新設しました。そして、派流の河川を用水路として整備するとともに既存の用水路とつなげることで、濃尾平野を潤す網の目のような水路のネットワーク、宮田用水が誕生しました（1608年）。

しかし、大正時代になると木曾川上流に発電用ダムが建設され、上流から土砂が流下しなくなったため河床低下が進み、取水に支障をきたすようになり、その取入口を木曾川の上流へと移設しています。



取入口の変遷

2-3 木津用水

宮田用水の整備によって平野部の一定地域では水源は確保されたものの、台地部や濃尾平野北部には広大な洪積台地が残されていました。尾張藩では江崎善左衛門など郷士（戦国浪人）六人衆の提言により四国の満濃池に匹敵する本州で最大の農業用ため池となる入鹿（いるか）池を整備（1633年）し、1,000ha余りの新田を開発しました。

この六人衆は続いて（1648年）、犬山城下に取水口を設け、大井堀（合瀬川）を開削することにより延長11kmの木津用水を完成させています（1650年）。その後、現在の小牧市・春日井市の一部において開拓の機運が高まり、それに応じ、木津用水を途中で分水し、東方面の台地へと水を運ぶ新木津用水を開削（1664年）させました。



木津用水等水路（1785年）

次号につづく お楽しみに！

写真で見る木津用水～昭和初期と現在を比較～

新濃尾事業所では現在、新木津用水路の改修を進めています。今回は、昭和初期の木津用水と現在の木津用水を写真で比較しました。木津用水の歴史を感じていただきたいと思います。

木津用水路 名鉄鉄橋付近

昭和初期の様子

現在の様子

荒井堰付近

昭和初期の様子

現在の様子

新木津用水路 二重堀堰付近

昭和初期の様子

現在の様子

新木津用水路 朝宮公園付近

昭和初期の様子

現在の様子

※昭和初期の写真は木津用水史（昭和3年11月23日発行）より引用